

# 吹田西ロータリークラブ

国際ロータリー第2660地区

## ウィークリー 2025-26



創立 1980.6.12  
 事務所 〒564-0051 吹田市豊津町9番40号 カリーノ江坂1階 TEL06-6338-0832 FAX06-6338-0020  
 URL <http://www.ssuita-west-rc.org> E-mail [src@jasmine.ocn.ne.jp](mailto:src@jasmine.ocn.ne.jp)  
 例会場 新大阪江坂東急REIホテル TEL06-6338-0109 例会日 毎月曜日 18:00~19:00  
 会長：榎原一滋 幹事：橋本幸治 クラブ会報委員会：堀豊

よいことのために  
 手をとりあおう

4つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

本日の例会	次回の例会
第1993回例会 令和8年2月16日 ●歌の時間 「夜空ノムコウ」スマップ ●会員卓話 「私の職業」 豊田 真千子会員	令和8年2月23日 <h1 style="text-align: center;">休 会 日</h1>



のことです。もともと季節の変わり目には邪気が入りやすいとされていたため、その邪気を追い払って幸せを願いました。江戸時代までは春が一年の始まりとされていたため、節分は「大晦日」のような意味を持っていたともいわれています。

節分の日は毎年同じではなく、「太陽の黄経（こうけい）が315度になった瞬間を含む日」が立春であり、その前日が節分とされています。今年は2月3日ですが、去年は2月2日でした。

「鬼は外、福は内」という言葉には、悪いものを遠ざけ、幸せや希望を呼び込もうという日本人ならではの願いが込められています。私たちの日常や社会に目を向けてみますと、不安や課題、思い通りにいかないことも少なくありません。しかし節分は、そうした「心の中の鬼」を見つめ直し、新しい一歩を踏み出す節目の日でもあるのではないのでしょうか。

ロータリーの活動もまた、地域や世界が抱える課題に向き合い、奉仕の心で「福」を広げていく取り組みです。一人ひとりの小さな行動が地域に安心をもたらし、未来への希望につながっていきます。立春を迎えるこの時期に改めて心を整え、今年一年、健康で実りある活動ができるよう、皆様と共に歩んで参りたいと思います。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

### 幹事報告

橋本幸治幹事

- 理事会報告です。3月度卓話予定表の件、クリーンウォータープロジェクト2025報告、クリスマス家族例会報告の件、吹田竹見小学校職業奉仕事業の件、木瀬部屋交流事業実施の件、尾家亮会員の退会、森下陽介様の入会が承認されました。
- 確定申告用寄付金の領収証、ロータリーの友2月号「抜萃のつづり」を会員ポストへ入れております。
- 2月9日の例会は休会、2月16日は理事会があります。

### 出席報告

出席委員会 江村委員長

- 会員数40名 ●来客6名
- 出席会員数30名
- 2月2日例会の出席率85.71%
- 1月19日の出席率（メーキャップ含む）100%



### 会長挨拶

榎原会長

本日も例会にご出席いただき、誠にありがとうございます。  
 本日は卓話ゲストとして神宗9代目・小山鐘平様にお越しいただいております。後ほど卓話、よろしくお願いいたします。そしてお友達紹介ゲストとして、綱島様、竹若様、小谷様、保呂様、友成様の5名の方にお越しいただいております。本日の例会をお楽しみいただき、ぜひとも入会をお待ちしております。  
 明日2月3日は「節分」です。恵方は「南南東」で、豆まきや恵方巻など、家族で楽しむ行事として親しまれており、日本独自の文化となっています。節分は「邪気を払い、1年の無病息災を願う行事」

## お誕生日のお祝い

2月

- 会員  
村井会員、瀧川紀征会員
- 会員パートナー  
木田会員パートナー、永岡会員パートナー  
枚本会員パートナー、近藤会員パートナー



## 各委員会・各同好会報告

- 国際奉仕委員会 瀧川健一朗国際奉仕理事  
国際奉仕事業「日本学生支援機構との国際文化交流」案内  
日時：2026年3月1日（日）朝8：45集合  
場所：吹田市江坂町3丁目 大阪木瀬部屋  
内容：独立行政法人日本学生支援機構 大阪日本語教育  
センター外国人留学生を通して国際文化交流を図る  
相撲稽古見学、ちゃんこ鍋交流会  
会員の皆様には、ちゃんこを食べながら留学生との文化  
交流（懇親）をお願い致します。
- 職業奉仕委員会 坂本職業奉仕理事  
①1月29日(金)より学校の都合で変更になっておりました  
第2回目の出前授業の日程が確定いたしました。  
2月24日(火)13時集合です。  
②告知が遅くなりましたが、職業奉仕の炉辺談話を2月13日  
(金)に開催いたします。場所は東急隣の炭火焼鳥「車」で  
18時より開催いたします。皆さまご参加よろしく願い  
いたします。
- 大和大学RAC設立準備委員会 紙谷委員長  
大和大学ローターアクトクラブ加盟認証状伝達式のご案内  
日時：2026年3月4日（水）16時受付／17時式典  
18時懇親会  
場所：大和大学1階食堂  
登録料は1万円て会員全員の登録となります。よろしく  
お願いします。

## ニコニコ箱

伊藤S.A.A.

榎原会長、清水大吾会員、高木会員、西村会員、橋本幸治幹事、村上会員、青木会員、坂本会員、瓜生会員、瀧川健一朗会員、合田会員、橋本徹也会員にご協力頂きました。皆様ありがとうございました。

- 前回までの小計 936,600円
- 本日のニコニコ箱 51,000円（12件）
- 累計のニコニコ箱 987,600円
- 本日のニコニコ箱B 0円 ●累計のニコニコ箱B 16,500円

## ゲスト卓話（西村元秀会員ゲスト）

「だしと出汁」株式会社神宗

代表取締役社長 小山 鐘平様

大阪における昆布と出汁の歴史は、江戸時代の北前船による流通網の発展に始まります。北海道松前から日本海を南下し、下関から瀬戸内海を経て大阪・堺に運ばれた昆布は、「天下の台所」大阪で加工され、関西食文化の基盤となりました。北前船の就航は大商人・河村瑞賢の功績で、西廻り航路が整備され、5月蝦夷地到着後、昆布や干鰯を積み7-8月に帰航しました。寄港地は酒田・富山・金沢などで、終着点が大阪。

享保6年頃、北前船運搬の荒昆布を刻み昆布に加工する業が大坂で始まり、元禄期にはとろろ昆布が盛んに製造されました。元文年間に仲買・問屋が整備され、安永・天明期に昆布問屋が繁栄。昆布屋伊兵衛が河内木綿と交換に昆布を堺に陸揚げした伝承もあります。

大阪は道南産の真昆布を選び、灰色がかった黒色で厚みがあり、甘みと旨みがしっかりしたコク深い味わいを好みました。京都の利尻昆布に対し、大阪の真昆布は紀州・土佐のカツオ節と出会い、合わせだしを生んだ、これが出汁文化の起源で、昆布のグルタミン酸とカツオのイノシン酸が相乗効果を発揮し、うま味が7-8倍に増幅します。

うま味は1910年に東京帝大の池田菊苗博士が昆布からグルタミン酸を発見し、第5の味覚として認定。昆布だしは上品で控えめなうま味を与え、素材を引き立てます。鰹節のイノシン酸、椎茸のグアニル酸と組み合わせると相乗効果が強いうま味が生まれ、カロリーゼロ・減塩効果もあり健康食として注目されています。大阪の薄味文化はこれを体現し、うどんの黄金色つゆやお吸い物が昆布出汁基本。一流料理屋は最上級真昆布で一番だしを引き、「うちの味」とします。

おいしさとは、うま味（アミノ酸）、甘味（マンニトール）、塩味（ミネラル）のトライアングル効果で、昆布だしはこれらが絶妙に調和する。やみつきになる成分はグルタミン酸とイノシン酸の組み合わせで、チョコレート+フォンドボー、ラーメンスープ+昆布出汁のように中毒性が生じます。

一番出汁は昆布10gを水1Lに浸け、細かい泡で取り出し、削り節10-20gを加え濾すのが正統です。加工技術も進化。堺の刃物でとろろ・おぼろ昆布、和歌山醤油で塩昆布が生まれ、幕府管理下で清国輸出もされました。明治維新後、自由取引で組合結成、粗悪品対策が進みました。大阪の昆布消費は日本一で、三大市場（堂島米、天満青物、雑喉場魚）が支え、中之島蔵屋敷で特産品流通。神宗創業1781年、海産物問屋が塩昆布生産、現在も百貨店で販売されています。

戦後、統制解除で需要増、大阪万博・自然食品ブームで定着しました。縄文期起源説もありますが、鎌倉中期から交易船活発化、江戸期に庶民食化しました。大阪の食探究心が、北の昆布を名産に変え、うま味文化を築いたのです。

